

# 南地の歴史

江戸時代〜明治〜大正〜昭和



▲大正～昭和初期の道頓堀中座前



▲明治中期の道頓堀



▲完成した戎橋の渡り初め直前の写真



▲大正14年に完成した鉄筋コンクリートの戎橋



▲昭和初期の道頓堀(戎橋筋との交差から)

▶昭和初期と思われる心斎橋筋入り口付近



◀昭和初期の戎橋



## 1600年代

- 1612年(慶長17) 安井道頓らが南堀河(道頓堀)の開削着工。
- 1614年(慶長19) 大坂冬の陣(11～12月)
- 1615年(慶長20) 大坂夏の陣(5月)で道頓、戦死。松平忠明、南堀河の開発の継続を指示。(9月)
- 1619年(元和5) 安井九兵衛、大坂三郷南組惣年寄となる。
- 1626年(寛永3) この頃、芝居小屋が道頓堀に移転、芝居町として賑わい始める。
- 1661年(寛文元) 中座落成。名代は塩屋久郎右衛門。
- 1669年(寛文9) 角座が官許の櫓を揚げる、名代は大坂太左衛門。
- 1672年(寛文12) 歌舞伎座の楽器として三味線の使用を正式に許可。
- 1693年(元禄6) 道頓堀に芝居茶屋できる。(11月)

## 1700年代

- 1703年(元禄16) 竹本采女が豊竹若太夫を名乗り豊竹座創立。
- 1727年(宝暦8) 茶屋の2階建てが許可になる。角座が回り舞台のしかけで評判をとる。

## 1800年代

- 1826年(文政9) シーボルト一行、角座で芝居見物。
- 1868年(慶応4) 鳥羽伏見の戦で芝居小屋も一時興行中止。
- 1872年(明治5) 人形浄瑠璃常打ち小屋、松島文楽座が文楽軒により千代崎橋の裾に建てられる。
- 1876年(明治9) 1月8日、2月20日、4月と3度の火災により各座焼失。  
豊竹若太夫の芝居は阪恵座、筑後の芝居は戎座、竹田の芝居は弁天座として、それぞれ開場。
- 1884年(明治17) 角座が改築落成披露。
- 1892年(明治25) 川上音二郎一座、浪花座で公演。  
角座の「五代目尾上菊五郎」対浪花座の「初代市川左團次」の対抗。  
見物人も両派に分かれて大騒ぎとなる。
- 1897年(明治30) 角座と弁天座で活動写真公開。
- 1899年(明治32) 女優のはしり、川上貞奴、中座に出演。

## 1900年代

- 1904年(明治37) 浪花座焼失。中座で日露戦争の実写上映がされる。山中定次郎、米国エジソン社よりフィルム購入。
- 1911年(明治44) 朝日座、道頓堀で一番早く映画館に転向。白井松次郎、ハムレットを角座で上演。
- 1913年(大正2) カフェ・パウリスク、キャバレー・パノン誕生。
- 1915年(大正4) 角座、平土間から客席を椅子式にする。
- 1917年(大正6) 弁天座にて沢田正二郎新国劇が興行。
- 1919年(大正8) 弁天座で新声劇が旗揚げ。
- 1925年(大正14) 鉄筋コンクリート橋、戎橋が完成。
- 1928年(昭和3) 松竹座が「赤い灯、青い灯・・・」の「道頓堀行進曲」上演。  
角座で松竹家庭劇の旗揚げ。(十吾、渋谷天外、曾我廼家三郎、一郎など)
- 1935年(昭和10) 戎橋に初代グリコネオン塔が灯る。
- 1937年(昭和12) 御堂筋線(阪急梅田駅～南海難波駅)が完成。(5月)



▲昭和初期の浪花座前



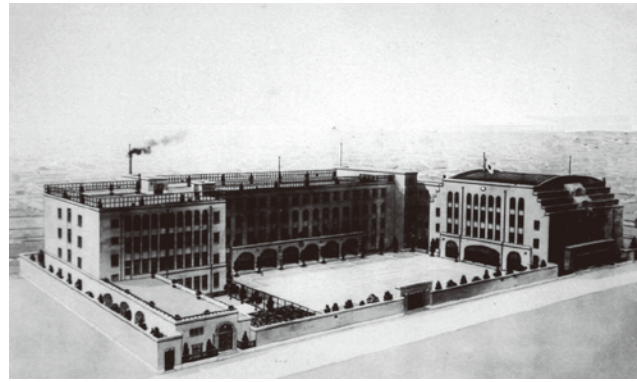
▲観客 3000 人収容の大阪歌舞伎座は昭和 7 年オープン



▲昭和初期の法善寺横丁



▲昭和初期の道頓堀  
瓦の大屋根の中座(左側)  
浪花座とビルの松竹座が  
見える



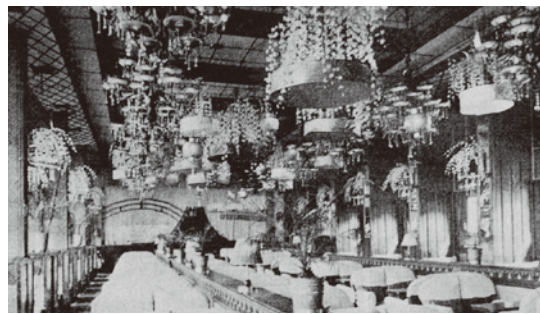
▲精華小学校(昭和 4 年竣工)は地上 4 階  
地下 1 階の鉄筋コンクリート造



▲昭和 4 年頃の道頓堀中座前



▲高島屋(南海ビル・昭和 7 年建築)前での  
御堂筋建設工事



▲キャバレー「赤玉」(昭和 6 年頃)

1900年代

- 1944年(昭和19) 大劇場閉鎖で道頓堀の灯は消えたようになる。
- 1945年(昭和20) 道頓堀の各座が空襲により焼失するが、松竹座だけは戦禍を免れる。
- 1946年(昭和21) 相合橋にバラックが建つ。浪花座が復興。
- 1947年(昭和22) 角座が復興。
- 1948年(昭和23) 中座が復興し開場。
- 1949年(昭和24) 道頓堀にキャバレー復活。
- 1956年(昭和31) 弁天座の跡、道頓堀文楽座として新装開場。
- 1958年(昭和33) 演芸の角座開場。
- 1963年(昭和38) 道頓堀文楽座が朝日座と改称。
- 1967年(昭和42) かき船、立ち退き交渉妥結 道頓堀改修工事完成。(12月)
- 1974年(昭和49) 藤山寛美芸術選奨文部大臣賞受賞。(3月)
- 1978年(昭和53) 道頓堀ガーデンロード、全線完成。(10月)
- 1979年(昭和54) 歌舞伎の船乗り込みが 55 年振りに復活。
- 1983年(昭和58) 相合橋の新装完成。(9月)
- 1984年(昭和59) 角座、朝日座が閉館。
- 1985年(昭和60) 阪神タイガースが日本一に。道頓堀に飛び込む人が出る。
- 1986年(昭和61) 中座新装開場。角座ビル竣工。
- 1987年(昭和62) 浪花座 1(洋画)が浪花座と改称、演芸場として再開場。
- 1988年(昭和63) 中座で 7 年ぶりに初春歌舞伎。
- 1989年(平成元) 中座で二代目中村鴈治郎七回忌追善三月大歌舞伎。
- 1990年(平成2) 藤山寛美没す。(5月21日)中座にて劇団葬「さよなら寛美」を実施。
- 1991年(平成3) 中座で三代目中村鴈治郎襲名披露。中座で新生松竹新喜劇旗揚げ。
- 1992年(平成4) 中座で三代目渋谷天外襲名披露公演。(5月)
- 1994年(平成6) 松竹座映画封切館の歴史に幕を閉じる。(5月)
- 1995年(平成7) 中座で中村鴈治郎が「曾根崎心中」上演千回達成。
- 1997年(平成9) 松竹座新築開場 記念式典、全歌舞伎俳優古式顔寄せ。(2月)
- 1998年(平成10) 松竹座十五代目片岡仁左衛門襲名披露。(4、5月)



▲「赤い灯、青い灯・・・」の道頓堀川のネオン  
(昭和 12 年頃)



▲昭和初期 道頓堀から戎橋、心斎橋筋方面を見る夜景



▲キャバレー「グランドパレス」(昭和10年頃)



▶昭和12年5月  
御堂筋(梅田)難波が完成

▶昭和32年  
初めての地下街が難波にオープンする



中座さよなら公演  
「じゅんさいはん」(平成11年)▲



▶とんぼりリバーウォーク開通(平成17年)

2000年代

- 2002年(平成14) 中座から失火・焼失。法善寺横丁も類焼に及ぶ。
- 2004年(平成16) B1角座開場。
- 2005年(平成17) とんぼりリバーウォークが戎橋から太左衛門橋まで開通。  
松竹座で四代目坂田藤十郎襲名披露。(11月)
- 2006年(平成18) ミナミ五座文化再生フォーラムが発足。(10月)  
大阪ミナミ映画祭、角座、精華小劇場で開催。(10月)
- 2009年(平成21) 中座くいだおれビルオープン(7月)  
道頓堀・ミナミー帯が放置自転車禁止区域に。(10月1日～)
- 2010年(平成22) 上海万博で「道頓堀デー」を開催。(6月1日から1週間)  
いっとこミナミ夏祭り「道頓堀川祝祭提灯」が800灯に。(7月7日～8月15日)  
道頓堀祭り「盆踊り大会」をとんぼりウォーク両岸で開催。(8月13日)  
「水都にぎわい創出プロジェクト2010」をとんぼりリバーウォークで開催。(10月1～3日)
- 2011年(平成23) 東日本大震災の救援金として、2,070,071円を送る。(4月)  
「道頓堀川祝祭提灯」を「道頓堀川万灯祭」として開催。(7月13日～8月24日)  
「道頓堀花マダン祭」開催。(10月13～18日)
- 2013年(平成25) 道頓堀プールサイドアベニュー設立準備株式会社を設立。(4月)  
「Forever21」が道頓堀にオープン。(4月20日)  
角座広場(DAIHATSU MOVE 道頓堀角座)がオープン。(7月28日)
- 2014年(平成26) 「大阪市客引き行為等の適正化に関する条例(客引き条例)」一部施行。(6月1日)  
ミナミー帯が客引き禁止区域に指定、客引き条例全部施行。(10月27日)  
「大阪ミナミ400年祭」のロゴマークが決定、シンポジウム開催。(11月15日)
- 2015年(平成27) 道頓堀川開削400年記念「大阪ミナミ400年祭」本祭を開催。(7月11・12日)  
「道頓堀盆おどりインターナショナル2015」がギネス世界記録2025人を達成する。(8月16日)
- 2016年(平成28) 大阪に訪日観光客が170万人となり、ミナミも予想以上の数の訪日観光客の受け入れ体制が進む。